

## 新たなビジネスモデルの構築を目指す

1月31日(月)、中央町のホテルで登別市産業クラスター形成協議会設立総会が開かれ、44団体、1個人が入会しました。

市は、地場のさまざまな産業を、基幹産業である観光を中心に集積し、市全域を一つの観光経済圏として機能させることを目的に『産業クラスター形成計画』を策定。昨年6月に国から地域再生計画の認定を受け、11月に設立発起人会が発足、同協議会設立へと動き出しました。

同協議会は、『観光通貨創出』『地場サービス創出』『新観光施設創出』の3分科会に分かれ、事業モデルの構築や事業計画の作成、地域再生構想と構造改革特区の提案など、事業化を目指して活動(平成20年3月までを予定)します。

総会では、発起人会を代表して上田俊朗さん(上田商会代表取締役)が、「市の基幹産業である観光を機軸に地場産業を集積させ、市内全域を一つの観光経済圏として再生する『産業クラスター』の実現に向け、協議会会員が一丸となって取り組む」と決意表明。この後、協議会役員を選出が行われ、会長には上田さんが選出されました。

### ～登別市産業クラスター形成協議会設立総会～



▲産業クラスターの実現に向け、決意を語る上田会長

## 雪まみれになって、遊びました ～ふおれすと鉱山『冬まつり2005』～



2月6日(日)、ふおれすと鉱山で毎年恒例となっている『冬まつり2005』が開かれました。

このまつりは市が主催し、同センター支援組織『モモンガくらぶ』などの協力を得て準備を進めてきたもので、市民など約300人が歩くスキーをはじめ、雪上ゲーム大会、そりすべりやポニー乗馬など、盛りだくさんのイベントを楽しみました。

子どもたちの1番人気は、ふおれすと鉱山グラウンドに設けられた雪山からのそり滑り。約8mの高さからの滑走とあって、迫力満点で、子どもたちは、そりやタイヤチューブなどを抱え、何度も何度もそり滑りを楽しんでいました。

## ひな人形を飾り、春を待ちます

### ～ひな人形づくり体験・ひな人形展～

2月19日(土)、文化伝承館で『ひな人形づくり体験』が開かれ、親子など22人が参加しました。

参加者は、郷土資料館ボランティアグループ・SLGのメンバーから指導を受けながら、和紙とつまようじで、5分程度のかわいらしいおびなとめびなを作り、扇を張り付けた台に飾り付けていました。

お母さんと参加した大立目和弥君(青葉小学校2年)は「着物のそでを作るのが難しかったよ。でもすごく楽しかったから、こいのぼり作りにも参加したいな」と力作を手話してくれました。

また、隣の郷土資料館では桃の節句に先立ち、2月3日(木)から『ひな人形展』が開かれ、訪れた市民は、明治から平成まで各年代を飾ったひな人形の顔や衣装の変遷を楽しんでいました。



◀『ひな人形づくり体験』  
▼『ひな人形展』

